

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果確定日. Contains details for 4071100939, 有限会社めぐみ, グループホームめぐみ, 福岡県福岡市南区...

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

医療ニーズの高い方を受け入れております。ご家族の普通の家で最後をと望む声に対応しております。その為にも私達なりに出来る事をかかりつけの医師、訪問看護の方々と力を合わせて支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先: http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains 株式会社アール・ツーエス, 福岡県福岡市博多区元町1-6-16, 平成29年11月16日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「めぐみ」は平成14年10月に開設され、法人は近隣にグループホームと訪問看護ステーションも運営している。研修、看護の部分で協力体制ができており、医療面の充実にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 contain various service outcome items and their self-evaluation results.

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を復唱しスタッフ間で共有し意識を高めてカンファレンス時にも自分のケアを見返す事を忘れずご近所様や来訪者と交流を図り利用者様が安心安全に過ごせるケアを実践しています	法人理念とグループホーム独自の理念がある。スタッフルームに「すべてが入居者のために」のスローガンも掲げており、職員は常に理念を頭に置き、利用者の日々の様子に留意している。月1回のカンファレンス時に振り返り、その理念の下で、より良いケアが実践できるよう勉強会も行っている。	理念の深い部分まで掘り下げ、話し合う時間を作り、振り返り、それぞれ自分自身で目標を持ってみたいだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場へはもちろんのことご近所様や来訪者の方々相談時など認知症やグループホームへの理解を促し地区の総会や茶話会などで来訪を声かけしています	西花畑公民館での茶話会に利用者4人と一緒に参加し、来訪の声かけしている。地区の総会、自治会の案内もあり、出席し顔なじみになるようにしており、グループホームの説明をし、理解を深めている。近隣の方が家族の入所の相談に見えたが、満床になっていたため、話を聞きアドバイスを行った。事業者でミカン狩りに行った時は、近隣におすそ分けをするなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災時の呼びかけや町内行事への参加、地域ケア会議へも参加し情報交換を得て意見交換しサービス向上に務めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での民生委員や包括センター、後見人の司法書士との情報交換や支援方法・意見を参考に評価に務めています	二か月に1回開催され民生委員、地域包括、後見人の司法書士などの参加があり、取り組み状況などの報告や意見を参考にサービス向上に努めている。家族の参加はなく、月1回日々の様子、変わったことなどを「めぐみ通信」にてお知らせしている。	家族が遠方に住んでいたり、縁者が少ない、又疎遠になっているなどの理由から家族の参加がない。毎月送付する「めぐみ通信」とともに運営推進会議の議事録などを送るようにしたらどうだろうか。運営推進会議がマンネリ化しないように、他の事業所の運営推進会議に出席できる機会を作るようにしてみるのも良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会意への参加、他施設からの問い合わせ、包括センターや保護課との情報交換など行っています 市町村との連携には心掛けています	生活保護受給の方も多く保護課に電話で相談したり訪問している。介護申請時は市に訪問する。地域ケア会議には市の保健師が出席をしており、情報などをもらうようにしている。運営推進会議で困りごとなどを話しあうこともあり、包括などからも意見をもらう。市町村との連携も心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での伝達講習、施設内での研修、リスクマネジメントマニュアル等により拘束のないケアを行っています	日中は施錠もなく夜間のみ行なう。二年前には見えないところにセンサーを設置していたが、現在使用はない。夜間はベッドサイドに音の出る感知センサーを置き注意をしている。スピーチロックなどに関しても「だめ」「ちょっと待って」などの言葉かけに気が付いた時は職員同士又は管理者が注意している。落ち着きがない時は職員が一緒に外を一回りする。来月、系列のグループホームで研修を受ける予定がある。	直近での外部研修の受講がないようなので、外部研修の機会を持たれたらどうだろうか。また、外部から講師を招くなども検討されてもよいのではないだろうか。

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル、勉強会、意見交換により日常的に職員が注意を払い防止に努めています		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強、民生委員、包括センター、後見人の司法書士等の説明を受け活用出来る様にしています	成年後見人制度を4名の方が利用しており、弁護士、司法書士などが後見人になっている。運営推進会議に参加されている後見人の司法書士の人が講師になり今年初めには勉強会を行った。制度を利用している人も多く、職員は権利擁護に関する制度の理解もできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に自宅、入院先を訪問しご家族との情報交換、本人様との情報交換を行い契約時には細やかな説明を実施しています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状報告はもちろん行事等への来訪の声かけを行っています 来訪時やお電話でのご家族の意見、希望を伺いプランに反映しています	遠方にいたり、疎遠な家族も多く、事業所から電話をすることが多い。疎遠だった長男に施設からの便りを出したり電話連絡を行っていたところ、手紙のやり取りができるようになった。季節の衣服の準備などをお願いをすると、荷物を持参してくれる家族もいる。個別の便りで状況を知らせ電話連絡をする事で、家族の意見、希望を伺いプランに反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やカンファレンス、勉強会と定期的に行い、意見交換の場を作っています	月初めの定期カンファレンス、定期研修、勉強会などがあり意見交換の場がある。代表者の訪問も週数回あり、何かあったらすぐに相談することができる。カンファレンスはそれぞれのグループホームで行い、パート、派遣の職員も参加する。職員の提案で寒さ対策のため二重窓に変更してもらったり、行事、勉強会についての意見も聞いてくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加、介護関係の資格取得を促し給与基準の改善を行い可能な限り休日の希望も聞いています		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別に関係なくその職員に合った業務に個性を活かし行える様な雰囲気作りに努めており法人での外部研修・施設内研修と伝達も行いスキルアップを目指しています	年齢は40歳代から60歳代までと幅広い。個人面談に管理者とともに代表者も同席する。自分が行きたい研修がある時は、勤務の振り替えをしてもらえる。夜勤は男性職員と月2回ケアマネが入る。休憩は一時間取れ、外に出る事もできる。調理師の資格を持っている職員が中心になり、早番、遅番と順番に献立を立てる。代表者もスキルアップを望んでおり、勉強の機会も多く持っている。	

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法的遵守や人権問題などに関する研修を行っています	入社時に法令遵守、倫理の勉強をし、人権問題の研修を受ける。同系列のグループホームで年1回研修があり、来月には管理者が出席し、内部研修におとす。利用者に対する人権を尊重するための理解を深めるよう取り組んでいる。	社協や包括、人権団体などの外部機関から学習資料やDVを借りてみてはどうだろうか。外部講師の派遣などもお願いしてみてもよいのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの長所、短所、得意分野や相性を把握すると共にスタッフ間での指導をしたり外部研修での伝達講習を行っています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の見学や地域ケア会議への参加、町内会の集まりなどで意見交換や施設情報の確保をしつつサービス向上に務めています 全国のGH大会や地域GHの交流会などで他施設の人と意見交換をしています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設、病院、自宅を訪問しご家族、関係者と情報交換をし雰囲気作りや生活の留意点を把握し入居時の不安解消に務めています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の通り入居前の訪問と面談で家族の希望本人の嗜好、歴史を知り本人の意向などをプランに反映しています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現状とご家族の意向を十分に把握した上でプラン作成しサービスの説明も十分に行っています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側とする側ではなくなじみの関係性を作り家庭的な雰囲気作りを務めています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフの年齢層が高いので御家族の相談相手となれる様、来訪時や現況報告の際、声かけをしています		

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の御家族や友人の方々の電話や来訪時は近況報告を行い24時間オープンで来訪していただける事をお伝えしています 配偶者のおられる方は定期的な面会などすすめています	同系列のグループホーム利用の夫のもとに、当事業所利用の妻を遊びに連れて行ったり、墓参りに行きたいとの要望に対応した。孫の結婚式に出席する予定があったが、結局は骨折があり行けなかった。病院入院時に顔なじみになった人の訪問もあった。近隣の茶話会に職員と一緒に参加したりと、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや誕生会、季節行事など交流を図りスタッフ、入居者様同士支えあっています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後、入居者様御家族が立ち寄って下さったりお電話、お手紙など頂いております 又他施設へ転居したり入院された方へは面会に行っています 相手方の迷惑にならぬ程度で		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活リズムや行動を把握し各入居者様への対応ノートを作成し情報共有をしています	入居時ケアマネを中心にアセスメントを行い、見直しは一年毎に行なう。家族からは口頭で情報を聞き取ったり、手紙により意向も聞き取る。担当者が本人の言った言葉から、ケアの気付きを個別にメモに取り、プランに反映させている。状況に変化のあった時は、ADLの低下の原因などを書き、随時変更を加えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の暮らして来た環境や時代背景を日々の生活の中のその方の言動などから察しながら把握に務めプランに反映しています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員で入居者様の個性や嗜好など身体的、精神的状況の把握に努めています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議・運営会議、カンファレンス・スタッフミーティングにより介護プラン作成に反映しています	プラン作成はケアマネが行うが、職員が素案を提案している。一日の流れを介護日誌に記録し、月1回のカンファレンスにより情報を共有している。サービス計画は短期3か月、長期6か月で作成する。モニタリングは項目により月1回及び2回行い、ケアマネが作成する。サービス担当者会議は3か月又は6か月で開催し、出席者それぞれの意見を聞きケアマネがまとめている。	介護日誌により一人ひとりの過ごし方、心身状態などがよくわかり、モニタリング、ケアプランに反映させているが、介護日誌と連動させ、ケアプランを見る機会を増やすようにしてみたら、よりよく課題とケアのあり方が見えてくるのではないだろうか。

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にできるだけ具体的に記録しカンファレンスやプラン見直しに活かせる様にしている 情報の共有は管理日誌や申し送り徹底している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気大切にし入居者様が気遣いせず何でも話せる雰囲気作りをしています 状況に応じ出来る限りのサービスをしています 結婚式や家族の集まりへの参加付き添いや病院、買い物への付き添いなど		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流サロンの利用などしている 又地域行事への参加 コンビニ、スーパーなどへの買い物など入居者の方々が出来るだけ豊かに暮らせる様心掛けています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員提携医による2週間に一度の往診と緊急時には在宅医への協力体制を取り救急病院への迅速な紹介により支援しています	ほとんどが提携医を利用しており、本人が以前から通っていた精神科には事業所で支援をしている。どうしても家族の同行が必要な時は家族にも支援をしてもらう。受診後は家族に報告している。薬が変わった時なども介護日誌に書き、職員間で共有をしている。救急時には家族に直接電話連絡し、医師の協力体制の下救急病院への迅速な紹介により支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、看護師による指導相談を適宜実施し研修講習等の依頼を実施しています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の送迎はもちろんの事、入院中の面会や洗濯など行い病院との情報交換を蜜に行い御家族と連携を取りながら緊急時の協力体制の充実を図っております 又退院時はカンファレンスにも参加してDr.とも事前に調整して受け入れています		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の入居者様に関しては医師と看護師の指導による対応と終末期の御家族の意向を元に主治医との綿密な情報確認をしながら支援に取り組んでいます 早期から終末期について説明し希望される方とは書面にて確認しています	看取りの指針があり、14年間で6名看取りを行った。契約時に説明し、重度化した時に再度説明の上同意を頂く。終末期の勉強会は入社時に行っており、代表者が講師をする。医師も24時間対応でき、終末期には家族と話しあいながら治療を行っている。「胃ろう」「鼻腔栄養」などの場合も家族と充分話し合い決める。看護職員も常勤し、医師と看護師の指導により支援に取り組んでいる。	

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時には対応マニュアルによる対応と医師、看護師の指導による実践教育と医療関係への迅速な連携を実施しています		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局指導による防災訓練や地域の防災訓練への参加、防災マニュアルに沿って訓練を実施しています	年2回訓練を行い、うち1回は消防署立ち会いで、夜間想定で行なった。避難場所としてはセブンイレブン、近隣地区の老健、同系列のグループホームなどがあり、協力体制はできている。2年前の大雪の時には水道が破裂し塩化ビニルに変えた。備蓄は同系列のグループホームから回してもらう。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性や人格プライバシーの尊重を重視し声かけや介護、介助の支援を行っています	本人が希望している呼び名で声かけをするようにしている。部屋に入るときはノックするなど利用者の個性や尊重とプライバシーを大事にしている。職員は接遇、マナーの研修を受け、理解に努めている。写真利用は同意書ももらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動や行動を察知しスタッフ全員で対応し情報を交換し合い入居者様が自己決定出来る様支援しています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気作りをし入居者様の意向を大切にその方に合った生活作りを支援しています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目に早めの衣替えの支援をし清潔感のある本人様の希望に沿った洋服や身だしなみの支援を行っています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや体調、状態に合わせて調理法、形態を変えたり旬の食材を使い季節感を感じて頂く様工夫しています 季節感を取り入れ出来るだけ季節の食材を使い調理しています	何を食べたいか利用者に聞きながら、早番、遅番のその日の担当者がバランスを考え作成している。利用者にはもやし根切り、玉ねぎの皮をむく、稲荷ずしにご飯を入れる等の手伝いをしてもらいながら調理している。魚は新鮮な魚を届けてもらう。肉、野菜などは代表者又は管理者が買い物に行く。誕生日には職員がケーキを作り、利用者と一緒に楽しんでいる。	

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の全身状態の把握に務め季節や状態に合わせて分量を設定しその方の習慣も含め支援しています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診に加え毎食後の口腔ケアの実施を行っています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用をなるべく減らし時間毎のトイレ誘導と個々の行動パターンの把握で誘導を心掛けて入居者様のペースに合わせ自立への工夫をしています	一日の流れを個別に介護日誌に書き込み、排泄のパターンを把握し、定時にトイレ誘導している。なるべくパンツで、トイレでの排泄との思いから、誘導することで、リハビリパンツ、パッド使用から布パンツ利用に3人が改善できた。排泄の声かけがうまくいかない時には、他の職員に代わってもらい、利用者のペースに合わせ自立への工夫をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良い物や食物繊維を含む物を使用し水分摂取に心掛け運動や体操、主治医による指導を受けて下剤服用など便秘解消の工夫をしています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の全身状態や意向を重視し無理強いせず希望に沿って入浴を行っています	入浴は週2～3回で10:00から4:00までほぼ一日にかけおこなっている。本人の希望により別の日にすることもある。個浴で湯は循環する。入浴剤をいれたり、しょうぶ湯、ゆず湯などにすることもある。シャンプー、リンスは自分の好きなものを使用している。入浴時に全身チェックを行い、皮膚の状況等を観察している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠状態を観察、把握し時に添い寝を行い良眠出来る様に務めています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導や定期的往診にて届けられた薬はスタッフにより処方箋と照らし合わせて正確な服薬をしています 副作用の早期発見に努めています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や地域交流行事、一日の流れ(洗濯、掃除、買い物など)本人に合わせて過ごして頂くが天気の良い日は庭や外出など心掛け工夫しています		

H29自己・外部評価表(GHめぐみ)12.14

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員付添での買い物、行事への参加、天気の良い日は散歩など支援しています 又御家族と本人の希望が合えば外泊外出支援も行っています	近隣のスーパー、コンビニ等に職員と一緒に買い物に行く。食レクもあり同系列のグループホームと一緒にバイキングに行ったり、代表者が作った弁当を持ち植物園に行った。年間の行事も桜、藤、紫陽花の花見、ミカン狩り、夏祭り、芋ほり、クリスマスなど多彩にあり、利用者の希望を把握し個別対応したり、全体で外出をするなど支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては御家族や行政関係者にお願しい金銭管理は行っていませんが入居者様の希望があれば後請求で買い物など行っています		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば電話の取次ぎや手紙の代筆郵送の支援を行っています 御家族に対しては電話や請求書と共に施設内通信や連絡事項近況報告の手紙を添えて郵送しています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街の一角にある一軒家の改装で昭和の香りを残す家庭的な作りで裏庭があり季節の花々を植え「自分の家」を思わせるような雰囲気を持っています	建物は懐かしい昔の雰囲気漂させ、裏庭には日本庭園があり、趣のある灯籠、実なる木々があり落ち着いた雰囲気が醸し出されている。窓は二重窓になっており防寒対策をしている。リビングには明り取りの天窓がある。キッチンとリビングが一体型で料理の様子も間近に感じとられ、利用者も自宅でくつろいでいるような雰囲気が感じられた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改装ホームでの空間の確保が難しいですが本人の居室を利用し出来るだけ空間を有効に使い入居者様には思い思いに過ごして頂く様に工夫しています		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご家族にお願しいご本人様が使われていた物を持って来て頂き、住み慣れた雰囲気作りを工夫しています	ベッド、カーテン、衣装ダンスなどが備え付けられている。「仏壇」「写真」「テレビ」など馴染みのあるもので部屋作りをしている。床に畳ベッド、ふとんを敷き就寝している利用者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活を過ごせる様に居室に危険物は置かず残存能力を生かし「出来る事は自分でをもっとうに過剰な介護はしない様スタッフ全体でミーティングなど行い統一した介護を心掛けています		